

西原で骨つぼ野ざらし

【西原】西原町小橋川の鉄塔近くに十数個の骨つぼが9年以上も放棄されている。付近住民は「気味が悪い」「仏様のためにも何とかしてほしい」と行政や地権者に要望しているが、双方の主張が食い違い、問題は先送りされたまま。遺骨は風雨にさらされている。

長期間、放置されている骨つぼ。西原町はビルルシートで覆った。西原町小橋川



責任あいまい9年以上

現場は公園に隣接しており、付近は通学路になっている。骨つぼがいつ放棄されたのかは不明だが、2001年8月に地権者の沖縄電力から町あてに骨つぼ放棄に関する文書があり、少なくとも同年以前から放置されていたことになる。

問題が再燃したのは08年4月。付近に住む与那覇隆さん(70)が偶然発見し、町や電力などに対応を求めたが、現在でも問題は解決されていない。沖縄電力の担当者は「誰が置いたのか、なぜ長期間、問

題が放置されたのか分からない」と困惑した様子。「墓地埋葬法は死体の埋葬や火葬を行う人が判明しない場合、市町村長が行うと定めており、西原町が処理すべきだ」として昨年11月に町へ文書で要請した。

これに対し町の担当者は「墓地埋葬法による解釈もあるが、骨つぼのふたに『イフミナ』の文字があり、引き取り手が分かる可能性もある」と主張。「不法投棄であれば管理する地権者が処理するのが基本。公平性の面から考えても電力で対応してほしい」と話す。

無縁仏として対応するには看板を立て、官報や新聞広告などで告知をした後に納骨する必要がある。その場合、広告費や火葬費を誰が出すのかも不明確だ。与那覇さんは「お金の問題ではなく心の問題。御霊が安らかに眠れない」と早期解決を求めている。